環境とともに

グループ事業の展開に合わせ、環境マネジメントシステムの範囲を拡大するとともに、環境負荷の大きな活動を明らかにし継続的な評価・見直しを進めています。また、環境コミュニケーションに積極的に取り組んでいます。

【環境】各行動計画の実績と評価

主な取り組み			2007年度目標	2007年度結果	評価	2008年度目標	掲載ページ
環境とともに	環境マネジメントシステム	ISO14001の認証を取得	認証を取得した532サイトの維持 外食新規店舗84店舗および 介護施設1ホームの新規認証を取得	532サイトで認証を維持 外食新規店舗84店舗および 介護施設1ホームの新規認証を取得	○	認証を取得した604サイトの維持 介護施設3ホームの新規認証を取得	50
		環境法規制の順守	違反件数0件	違反件数0件	○	違反件数0件	51
	廃棄物3Rへの取り組み	全廃棄物リサイクル率（※1）	35%以上	33.9%	×	35%以上	51
		食品廃棄物リサイクル率（※1）	28%以上	24.4%	×	28%以上	51
		廃棄物低減の取り組み（※2）	前年対比100%未満(1店舗当たり16.1t)	1店舗当たり20.3t	×	前年対比100%未満	51
	地球温暖化防止へ向けて	CO_2排出量の削減（※2）	前年対比100%未満(1店舗当たり116t-CO_2)	1店舗当たり112t-CO_2	○	前年対比100%未満	51
		電気使用量の削減（※2）	前年対比1%削減(1店舗当たり25.0万kWh)	1店舗当たり23.9万kWh	○	前年対比1%削減	66
		水使用量の削減（※2）	前年対比100%未満(1店舗当たり4.1千m^3)	1店舗あたり4.2千m^3	×	前年対比100%未満	66
		NPO法人の支援（「森づくり」を行うNPO法人を設立・支援）	NPO法人の設立 グループボランティア 受け入れスタート	2007年10月にNPO法人 「Return to Forest Life」を設立 ボランティア受け入れ231名	○	ボランティア受け入れ300名	59
	環境コミュニケーション	社内へのコミュニケーション活動を実施	現状維持	5月、8月、10月に実施	○	現状維持	56
		社外とのコミュニケーション活動を実施	環境セミナー・イベントへの積極的出展（講演）	環境セミナー・イベントなど3件に参加（出展・講演）	○	環境セミナー・イベントへ積極的に参加（出展・講演）	57

○達成、×未達成、－該当なし
（※1）対象は外食603店舗およびワタミ手づくり厨房3センター
（※2）対象は外食603店舗

環境基本方針

ワタミグループは、外食及び介護サービスを通じて、より多くの方々に「安全・安心」な食材を提供するとともに、地球や自然にやさしい環境の保全に貢献することをグループの責務と考え、全ての事業所を対象とした環境負荷の削減を図るための可能な限りの努力を行います。

環境方針 2008年5月1日

1. ワタミグループは、環境基本方針の理念にもとづき事業活動の中で環境影響の大きな項目について、環境目的・目標を設定して取り組み、その結果を見直していきます。
2. 特に以下の項目に取り組むために具体的な環境行動計画を策定し、継続的改善および汚染の予防をお約束します。
   - ●電気使用量の削減
   - ●紙使用量の削減
   - ●生ゴミ廃棄量の削減
   - ●3Rの推進（リデュース・リユース・リサイクル）
   - ●教育による環境意識および能力の向上
   - ●温暖化対策の推進
3. ワタミグループの活動に関連する環境法規制および当グループが同意するその他の要求事項を順守します。
4. ワタミグループのすべての従業員に対して継続的に教育を行い、環境に対する意識を高めるとともに本方針の浸透を図ります。
5. 本方針を適切な機会をとらえて積極的に公開し、開示要望にお応えします。

新体制での環境への取り組みがスタート

ワタミグループ環境管理責任者
ワタミエコフォーカス（株）
副社長 川辺 壽也

ワタミグループの事業活動で発生する環境負荷のほとんどは外食店舗やホーム（介護施設）といった施設で発生します。

環境負荷を減らすにはその施設の企画設計段階から環境施策を取り込むことが重要です。ワタミグループでは環境対策をさらに強化するために、これまで別々の組織であった環境と施設の企画、設計、建設、管理を統合（ワタミエコフォーカスの設立）いたしました。施設設計の段階から環境対応型の施設を造る試みとしてレストヴィラ鎌倉常盤において初のオール電化システムを導入。確実に環境負荷を低減する施策が進んでいます。

また、介護事業での環境活動は今年、ISO14001の認証取得を4ホームへ拡大することができ、介護事業における環境活動のスタンダードが構築されました。

外食事業の環境施策はリサイクル率をさらに向上させるため新しい仕組みのリサイクルセンターの設立を2009年稼動にむけて計画中です。コンプライアンスの重視、環境面と経済面を現在よりも高いレベルで両立させた新リサイクルシステムの完成を目指しています。

環境マネジメント

環境マネジメントシステムの強化と範囲の拡大

ワタミグループでは環境方針の下、グループ全体で環境保全活動に取り組んでいます。本社各部門およびグループ各社のEMS委員を中心に環境管理体制を確立し、目的・目標の達成を目指しています。

また、定期的に内部監査を実施して、本社および外食店舗、老人ホーム、ワタミ手づくり厨房における環境活動の継続的改善に努めています。特に店舗監査は店舗サービスの品質確認と是正を目的とした業務監査と同じタイミングで実施しています。

監査員は主に環境活動の進捗を含めた従業員への浸透度、法規制の順守状況などを確認し、是正処置要求を含めた結果報告をしています。

EMS委員会

グループ内の環境活動をより効果的に推進していくために、各社各部署よりメンバー約20名を選抜して月2回、環境マネジメントシステム委員会（EMS委員会）を開催しています。

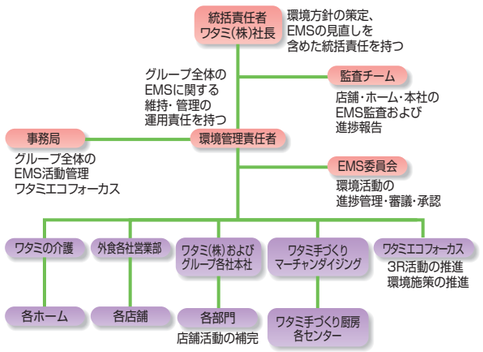
この委員会では、グループ内環境活動の方向性の立案および改訂、具体的行動計画の策定と活動の進捗確認などを行っています。

また、委員会では環境活動のリーダーとなるメンバーの能力向上を目指して、内部監査員養成講習会などを随時実施しています。

EMS委員会の様子

ワタミグループの環境マネジメントシステム(EMS) は下記のような組織体制を敷いて、店舗および本社の社員からアルバイトメンバーまで、グループ内すべての従業員で取り組んでいます。

環境管理体制（2008年4月1日現在）



ワタミ環境宣言

"美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していってあげたい" 次の世代が、今ある美しい地球環境を受け継ぐことができたら、とてもすばらしいことだろう…。このためには、地球に住むひとり、ひとりが変わらなくては、何も変わらない。

（1999年7月29日付　日経流通新聞当社広告）

ISO14001の取り組み

ワタミグループは1999年7月に、日本の外食産業として初めて、本社および全外食店舗にてISO14001の認証を取得しました。

2007年には老人ホーム1ホーム（レストヴィラ座間谷戸山公園）の認証取得をし、2008年度はさらに4ホームに拡大しました。私たちはこれからも対象店舗、活動範囲を広げながらシステムのPDCAの仕組みを活用して環境活動の継続的改善を図っていきます。

■ISO14001 2008年度認証対象範囲

2008年7月に維持拡大審査を終え、ISO14001の登録サイトは、ワタミ(株)、WFS、WDFS、T.G.I.F.J、ワタミの介護、ワタミ手づくりマーチャンダイジング、ワタミエコフォーカスのグループ会社7社の1本社ビルおよび、ワタミ手づくり厨房3センター、老人ホーム4ホーム、変更審査申請時点での599店舗の合計607サイトとなります。

申請月以降の外食事業における新規店舗では、未登録ながら同様の活動に取り組み、常に全店舗の登録を推進しています。

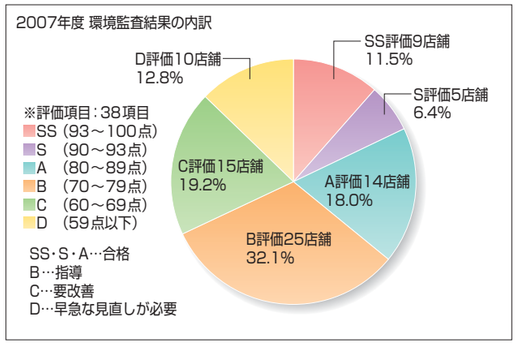
環境監査の実施

ワタミグループでは、2007年度より店舗運営における環境活動への取り組みの強化と教育を目的として、通常の内部監査に加えて、環境監査を実施しています。環境監査では、EMS委員が店舗における廃棄物の分別基準、グリストラップや廃油に関して正しい管理が行われているかなど38項目を確認し、さらに管理状況を向上させるための教育を実施します。2007年度は、78店舗で実施しました。

また、監査結果は外食各社営業部に伝達され、指摘内容に基づいて店舗で改善活動が行われます。

※環境監査は、通常の内部監査項目の中で環境に対応する項目を、より詳細に区分した項目に沿って監査する制度です。2008年度は年間約130店舗での監査の実施を計画しています。

2007年度 環境監査結果の内訳

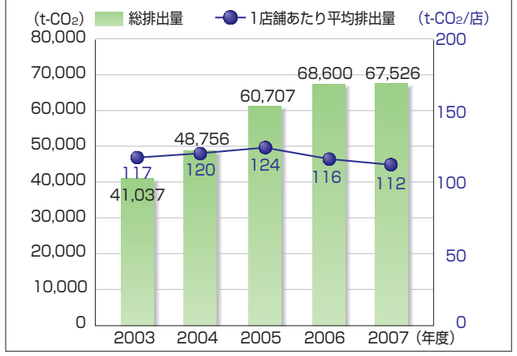


CO_2排出量の削減について

2007年度のエネルギー使用量によるCO_2排出量は、全店舗で67,526t-CO_2となり、前年比較で98.4%となりました。また、1店舗あたりのCO_2排出量は、前年比較で4.0t-CO_2という改善をしました。

これは、EMS委員会のメンバーの選定を見直し、店舗運営を担当する幹部を登用するなど、より現場に近いメンバーで推進を図ったことや、店舗のムダをなくすためのプロジェクトを立ち上げたことによる相乗効果などが改善の要因としてあげられます。2008年度も、より一層のCO_2排出量の軽減化を推進していきます。

店舗CO_2排出量の推移



クールビズ・ウォームビズ

環境省主催の「チーム・マイナス6%」活動に賛同し、企業が直接取り組むことができるクールビズ・ウォームビズを推進しています。

クールビズ対応ではワタミ本社ビルで室内の温度が28℃になるように調整し、ノーネクタイ・ノー上着を実施しました。2007年度取り組みの結果としては98.6%と前年比で削減し、全体では前年と比較して5,016kWhの電力量の削減、金額換算で70千円の削減となりました。

ウォームビズ対応では、毎月エアコンフィルタの清掃を実施、また室内の温度が20℃になるように調整し、1日2回の温度チェックの実施、週単位・月単位で前年比の電気・動力使用量と比較しましたが、2007年度は使用量で+9,808kWh増加、前年比104%の増加となりました。前年比オーバーという結果は、本社ビルで使用するフロアが増加されたことが大きな要因と考えています。

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

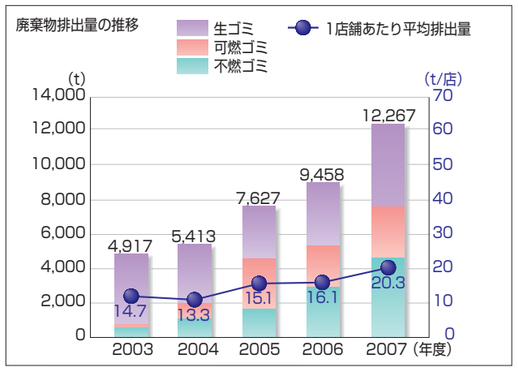
チームマイナス6%　http://www.team-6.jp/index.html

エアコンフィルタ清掃

廃棄物低減の取り組み

2007年度の外食全店舗における廃棄物排出量は、全店舗合計で12,267t、1店舗換算では20.3tとなりました。これは、外食店舗における焼酎メニューのアイテム数増加によるビンの排出量増、および一般メニューに比べお客さまの食べ残し（生ゴミ）が多い宴会コース料理の比率が増加したことが主要因です。

この結果を受けて、2007年度の外食店舗およびワタミ手づくり厨房の生ゴミのリサイクル率は24.4%となりました。また、ビンにおいては全量をリサイクルするなどの結果、全廃棄物のリサイクル率は33.9%となりました。2008年度は、生ゴミリサイクルシステムの新たな仕組みづくりを進めるとともに、引き続き食品リサイクル率28%、全廃棄物リサイクル率35%の達成を目標に廃棄物リサイクルに取り組んでいます。



ワタミエコフォーカスが運営するリサイクルセンターの様子

環境法規制の順守

2007年改正の食品リサイクル法施行を受け、グループ内の生ゴミ発生状況を把握し、循環型の「生ゴミリサイクルの仕組み」を再検討しています。今後は店舗で一次分別し、生ごみのリサイクル処理を外部委託していくことも検証していきます。

廃棄物処理法に関しては、産業廃棄物のマニフェスト管理に重点をおいて取り組み、戻り伝票チェックによる適正処理の確認を徹底して行っています。また、廃棄物の中間および最終処分施設の立ち入り調査を継続して実施しており、2006年度より、コンプライアンス対応ができる廃棄物回収・処理業者の選定体制づくりを進めています。さらに、新規出店地域別廃棄物処理フローを確認し、各業者様と情報を共有するとともに、排出事業者と各廃棄物事業者との直接契約の締結や、マニフェスト伝票管理システムの導入などの管理業務の強化など、廃棄物処理に関する仕組みを再整備しています。

容器包装リサイクル法に関しては、店舗の料理をお持ち帰りされるお客さま用のパッケージと袋が年間で若干量発生するため、自社でリサイクル対応できない分を再商品化委託契約にて対応しています。

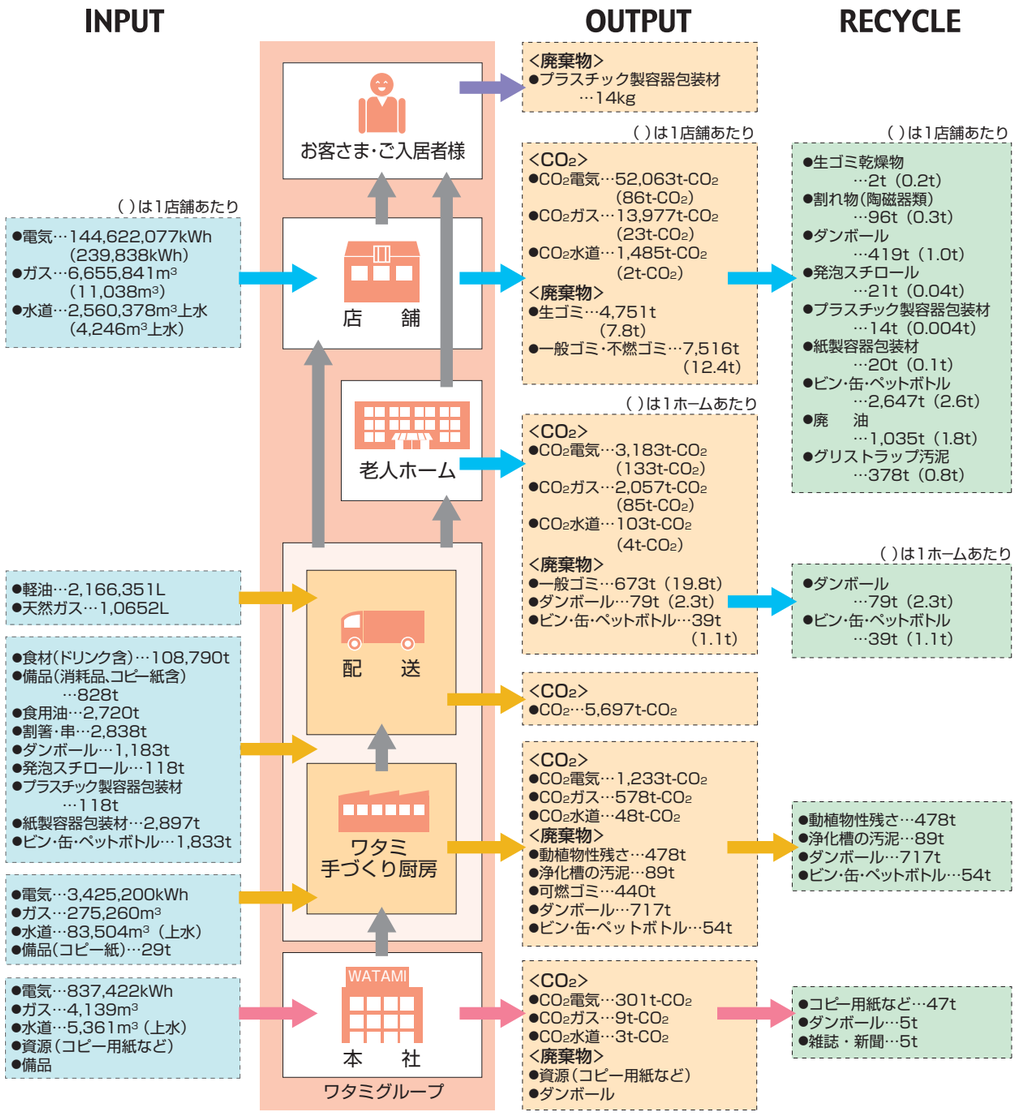
グループの主な環境影響

グループ全体の環境影響を把握し、課題を明らかにします。

外食事業や介護事業を展開しているワタミグループにおいて、環境負荷の特徴は、全体の大部分を占める店舗の多品種で小ロットな廃棄物の発生と照明や調理器具の使用および店食材の配送に伴うエネルギー消費量が多いことです。

このことから、環境面における最も大きな課題として、廃棄物の削減と地球温暖化対策に継続的に取り組むことが重要であると考えています。2007年度からは、外食店舗に加えて、老人ホームやワタミ手づくり厨房での取り組みを明らかにすることで、より一層環境への取り組みを強化していきたいと考えています。また、そのノウハウを公開することで、業界全体の活動を広く浸透させていくことは、企業として当然の責務であると考えています。

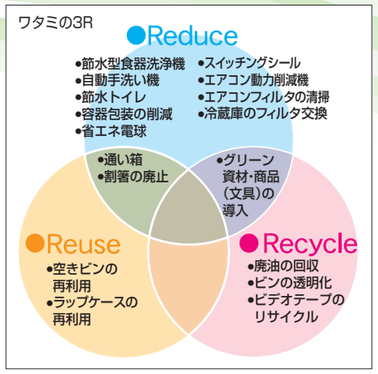
ワタミのマテリアルフロー図
環境負荷を効果的に削減するために、製造・輸送・販売という流れの中で消費するエネルギー量や廃棄物の排出量などを測定、明らかにしています。



※数値は年間数値（2007年4月1日～2008年3月31日）※ワタミ手づくり厨房は、国内3センターを対象 ※投入量（INPUT）に関しては、1999年度に算出した1店舗あたりの食材・備品などの仕入れ物を計量した数値に現在の店舗数に乗じて算出しています。外食店舗における排出量（OUTPUT）は2005年度および2006年度の定期計量（年19回、延べ94店舗）数値の平均値を使用しています。また、老人ホームにおける排出量は2007年度に毎月定期計量した7ホームの平均値を基準として、入居者数を乗じて算出しています。※1店舗あたりの数値を除き小数点以下の数値は四捨五入をして記載しています。

●CO_2排出量算出係数(kg-CO_2/kWh)電気：0.36　●CO_2排出量算出係数(kg-CO_2/m³)ガス：2.10　●CO_2排出量算出係数(kg-CO_2/m³)水：0.58

外食店舗での取り組み



新しいゼロエミッションの仕組みづくりと3Rの推進に向けて

ワタミエコフォーカスでは、環境負荷軽減への取り組みを継続していくためには、軽減への成果とコストバランスのとれた新しいリサイクルの仕組みをつくることが必要だと考えています。

1998年店舗でのゴミ分別から始まり、2004年には首都圏ではゼロエミッションの仕組みができあがりました。2006年からは、さらにリサイクルだけではなく、再利用やゴミそのものの発生を抑制する考え方として3Rの推進をスタートさせました。

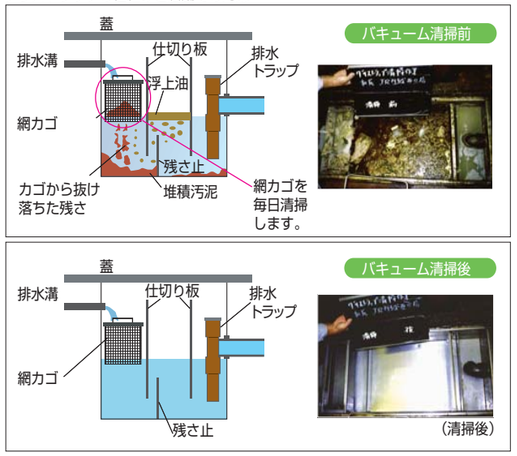
2002年には1店舗で発生する1日あたり生ゴミが43kgでしたが、2006年には22kgに削減されました。この削減により、廃棄処理コスト以上にリサイクルに必要なコストが発生するようになったため、この状況を前提とした仕組みの再構築を課題としています。2007年には、廃プラスチックの固形燃料化もスタートし、2008年度はリサイクルセンターの範囲を拡大した新しいゼロエミッションの仕組みを立ち上げるべく準備を進めています。

水質改善への取り組み

ワタミグループでは店舗の厨房内から出た油や汚泥が下水処理場に流れるのを防ぐ「グリストラップ」の網カゴ内の残さを徹底して毎日廃棄、清掃を行うとともに汚泥のバキューム回収処理を定期的に実施することによって水質改善を図っています。

また、さらなる改善を目指して、店舗における水質改善装置の稼動テストも継続して行っています。その他、内部監査の項目に「グリストラップ清掃の状況確認」を組み込み、全店の清掃の状況を把握するとともに、毎週の業務改革会議で報告して継続的に改善を促進しています。

グリストラップの仕組みと店舗での対応



節水への取り組み

ワタミグループでは水使用量の削減を目的に、店舗においては水の出しっ放し使用や流水解凍を禁止するとともに、グラスの「ため水洗浄」を積極的に推進してムダな水使用を防いでいます。

また、月単位で使用量の計測を実施し、前月、前年の使用量との比較をすることによって、異常値の有無や対策実施効果を常に検証しています。新規店舗出店時には衛生面と水の出しっ放し防止を兼ねて、センサーの感知によって手を触れることなく自動的に水を出したり止めたりできる自動手洗い機の設置と節水仕様の食器洗浄機やトイレを導入しています。2007年度は新たに節水バルブを39店舗に導入し、6店舗で効果検証を行ったところ、1店舗あたり平均18.9%水使用量削減効果を確認できました。

エネルギーマネジメントシステム

2004年8月より、店舗の使用電力を一元管理するモニター機器（電気の使われ方を24時間監視し、ムダな使用を発見して、その抑制を行う使用電力監視システム）を2008年5月現在で292店舗に導入しています。

さらに、2005年6月より温湿度センサーを店舗内に取り付け、営業中の客席環境が快適な空間に保てるよう取り組んでいます。

電力のムダに対して各店舗でタイムリーな対策を打つことにより、2007年度は、導入店舗全店で導入前使用量との比較で13.6%、電気料金で1億7,100万円、CO_2排出量で3,146.4t-CO_2の削減をすることができました（2007年4月～2008年3月の1年間実績）。このCO_2排出量は、森林が1年間に光合成を行う際のCO_2吸収量（※）に換算して、216haに相当します。

※2007年度は森林（1haあたり）のCO_2吸収量は14.5t-CO_2/ha（年間）にて換算。

項目の●の色は　●Reduce　●Reuse　●Recycle　に対応しています。

●省エネ電球
新店舗では省エネ電球の導入を積極的に行い、既存店舗においても交換時に省エネ電球への付け替えを推進し、電気使用量の削減に努めています。

●●割箸の廃止
割箸を廃止し、繰り返し使える箸に変更したことで、廃棄物の発生を抑制しました。

●容器包装の削減
お取引業者様と協力し、ウーロン茶・緑茶のペットボトルのパッケージフィルムなどの廃棄物を抑制しています。

●スイッチングシール
スイッチに色分けシールを貼り、時間帯によって点灯する電気、点灯しない電気を明確にしてムダな電気の使用を抑えています。

●廃油のリサイクル
使用済みの油は缶に保管後定期回収してリサイクル処理しています。

●ゴミの分別活動（キッチン・フロア）
キッチン・フロアでは各ポジションに応じて分別用ゴミ箱を設置しています。

データ集：□店舗電気使用量の推移　□店舗廃棄物リサイクル率の推移　□店舗都市ガス使用量の推移　□店舗水使用量の推移…P66

ワタミの介護のホームでの取り組み

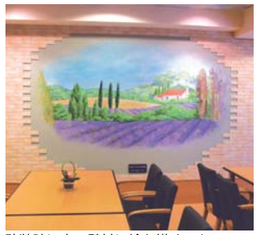
ワタミの介護のホームは、ご入居者様にとって快適で安心できるホームの建築を追求するとともに、新ホームやホーム改装時には設計段階から環境負荷を低減する仕組みを取り入れています。環境配慮型機器の導入のみならず、機能からデザインまで環境に配慮した設計を施しています。また、ご入居者様の生活スタイルや従業員の介護サービスの過程で発生する環境負荷についても、様々な低減活動に取り組んでいます。

DfE(Design for Environment)～環境配慮設計

ワタミの介護のホームは、ご入居者様にとって快適で安心できるホームを建設する過程において、環境面にも配慮した様々な工夫をしています。

■建設材のカットをなくしたデザイン～廃材の削減

路面に敷き詰めたブロックや壁面デザインは材料をカットせず本来の形状を生かす「ノンカット」をコンセプトに、廃棄物の発生を抑制しています。また改装時にも既存施設を活かし廃材の削減に努めています。


改装時に古い壁材に絵を描くことで仕上げ材を削減（レストヴィラ川口安行）

ノンカットブロックを使ったエントランス（レストヴィラ名瀬の里）

■オール電化システムの導入

レストヴィラ鎌倉常盤では、オール電化システムを導入し、厨房、冷暖房機器、給湯システムなどにおける燃焼ガスとCO_2の発生を低減する仕組みをとっています。蓄熱システムやヒートポンプ方式により、消費エネルギーをより低減し、また、燃焼系給湯装置と比べ、CO_2の排出量を削減します。

レストヴィラ鎌倉常盤

電化厨房機器は、ゴトクなどの清掃が簡単で衛生的、かつ火を使わないため不完全燃焼などの心配がなく安全です。燃焼ガスの発生を抑制するとともに、温度や時間の細かいコントロールによる調理が可能になりました。

■その他の取り組み例

空気触媒コーティングによる消臭抗菌（レストヴィラ溝の口）
ゴム製床材導入によるノーワックス化（レストヴィラ町田小野路）

廊下の照明器具を絵画の間接照明と兼用させることで必要な照明器具を削減（レストヴィラ川口安行）

身近に自然に触れられる憩いの空間づくり（レストヴィラ名瀬の里）

ホームのスタッフによる環境活動

■3Rの推進～廃棄物の発生抑制

ISO14001の認証を取得したホームでは、廃棄物を適切に分別することでリサイクルできる廃棄材を分類し、3Rの推進を図っています。自主基準として11分別のルールを設け取り組んでいます。

レストヴィラ葉山

ご入居者様との環境コミュニケーション

ワタミの介護では、環境啓発活動の一環としてブラックイルミネーション2008に参加し、6月21日（土）および7月7日(月)にホームの外灯看板（一部異なる）を消灯しました。

また独自のキャンペーンとして、ご入居者様に環境をテーマにしたオリジナルドリンクの提供などを行い、環境について考えるきっかけを提供しました。

TOPICS ISO14001の取り組み

ワタミのISO14001は、これまで外食店舗を中心に認証範囲を拡大してきましたが、2007年にレストヴィラ座間谷戸山公園でも認証取得しました。その運用実績を元に老人ホームで水平展開し、2008年の拡大審査において、新たにレストヴィラ川口安行・堀之内・葉山の3ホームも認証を取得しました。これからも対象ホームと活動範囲を広げながらPDCAの仕組みを活用して環境活動の継続的改善を図っていきます。

レストヴィラ葉山

ワタミ手づくり厨房での取り組み

ワタミ手づくり厨房では、食の安全を提供する中で、様々な環境配慮に取り組んでいます。従業員一人ひとりの環境への意識向上と作業工程の効率化、機器の安全管理の仕組みが環境負荷の低減に繋がっています。また、物流工程でも大気汚染やCO_2を削減するために、輸送に関わる様々な改善に取り組んでいます。

省資源とリサイクルの仕組み

■電解水の利用

電解水により、洗剤使用量削減を減らし、排水として放出する水質をより改善する取り組みをしています。さらに、電解水のイオンバランスを替えることで殺菌効果もあることから、食品衛生上の安全にも効果があります。

電解水精製機

電解水装置

■通い箱

ワタミ手づくり厨房から、外食店舗や老人ホームなどに食材を搬入する過程で、梱包材の使用は欠かせません。「通い箱」を使用することで、梱包材の削減に取り組みダンボール材の使用削減や排出量の削減につながっています。

通い箱による発送

■廃棄食材のリサイクル

ワタミ手づくり厨房の食品加工で発生する食材の端材はリサイクルとして堆肥化しています。排出する際にも塩分濃度によって分類し、リサイクル委託業者様がリサイクルしやすいような協力の仕組みをとっています。

塩分濃度によって分類した廃棄食材

準社員とのコミュニケーション

ワタミ手づくり厨房の環境活動には、準社員の協力がなくてはなりません。ここでは教育とコミュニケーションを重視し、環境の取り組みがセンター全体で実施できるよう、メンバーが様々なプログラムを組んでいます。センターの現場で働く従業員が環境の取り組みやISO14001の仕組みをより身近に捉えることができるよう、現場の作業にあわせた形で教育しています。

排水管理

■排水管理

ワタミ手づくり厨房相模原センターおよび越谷センターでは浄化装置を設置し、また、関西センターでは固形有機物分解システムを導入し、排水処理を行っています。水質データを定期的にチェックし、管理に努めるとともに、法令順守の仕組みを徹底しています。

ワタミ手づくり厨房相模原センター

配送におけるCO_2削減

物流工程の環境負荷の低減として、主に大気汚染防止とCO_2削減に取り組んでいます。ワタミグループでは、配送業務を委託しているため、お取引業者様も含めたトータルの配送距離削減のための取り組みを推進することが大切であると考えています。取り組みのひとつが、関東・関西ごとに「集約倉庫」を設け、お取引業者様との協力体制をとった「集約配送ルートの構築」です。

2006年度より、トラック配送におけるCO_2排出量の把握に向けてデータ収集を始め、2007年度は9,263千kmの配送距離となりました。このガソリン使用量をCO_2排出量に換算すると4,892t-CO_2になります。

また、2006年度より外食店舗の出店に伴い九州地区と北海道地区に、荷物の集配業務を行うサテライトセンターを新たに設立し、お取引業者様の配送距離を削減する取り組みも行っています。

今後も継続して、新規出店に合わせた店舗への配送ルートの組み替えおよび帰り便の有効活用による配送の効率化などにより、環境負荷の低減に少しでも寄与していくことを目標としています。

■アイドリング・ストップの徹底

店舗の食材やドリンクの納品時は、全車エンジン停止（アイドリング・ストップ）することをお取引業者様との協議によって決定し、その徹底を図っています。

■天然ガス車の導入へ

2006年度より、お取引業者様との協力のもと、地球温暖化の原因となるCO_2の排出量が、ガソリン車より2～3割低減できる天然ガス車の実験的な導入を北海道でスタートさせています。

2007年度 走行データ　※CO_2原単位 軽油…2.62 天然ガス…0.00196

総走行合計（千km）	走行距離／軽油分（千km）	走行距離／天然ガス分（千km）	軽油使用燃料（千L）	天然ガス使用量（千L）	CO_2換算 t-CO_2/千L
10,529	10,479	50	2,166	10	5,675

環境コミュニケーション

ワタミでは環境について積極的に取り組む意義と、どのような目標をもち実際にどのように活動を行っているのかということを全従業員が理解し、環境に対する思いと知識の共有化を行うために様々な研修を実施しています。

そして、この教育を通して従業員が自立した一人の人間として、環境について考えられるようになってほしいと考えています。

また、「ワタミ環境宣言」にて、ISO14001認証取得に関わる情報や廃棄物のリサイクルなど、自社の取り組み内容を積極的に情報公開する姿勢も表明しております。

さらに、環境意識の向上を目的とし、「環境活動への取り組み」を外部の各種の団体や大学、企業などの要望に応じて紹介しています。

社内におけるコミュニケーション

社員への教育

■外食・介護における教育

ワタミグループの外食店舗において、店長がその取り組み・推進の要となるため、店長の環境活動に対する理解は環境負荷低減の重要なポイントといえます。店長には毎年1回、また、副店長に昇格する対象者には、副店長育成研修にて店舗における環境活動の手順についての教育を実施しています。

また、2008年度は老人ホームにおいても環境負荷低減を目指しホームで環境活動を実施するための教育を年3回の計画で始めています。

■新入・中途社員研修

環境問題の重要性とワタミグループが環境問題に真摯に取り組む理由を、入社時研修の中での重要なプログラムとして位置づけて研修しています。この研修により環境に対する意識づけを図ると同時に、研修内容の理解度を確認するテストを行っています。

■本社従業員説明

本社では、年度はじめに、本社で行う当年度の環境への取り組み内容と考え方を伝える説明会を実施しています。

■ISO14001特別研修

ワタミでは、EMS委員、内部監査員などを対象として、環境問題や環境活動に関する理解浸透および監査員の養成などを行っています。これらの教育を通して、環境活動の理解浸透と社員の専門性向上を推進しています。

環境研修実績（2007年度）

研　修　名	人数(人)
階層別研修会：ワタミ(株)	120
中途入社社員研修	541
新卒社員研修	406
WFS店長・副店長育成セミナー	109
本部PA　ISO周知研修	45
ISO特別セミナー	47
その他研修	3,934

その他の取り組み

■環境ビデオレター

外食店舗では年間1回、ワタミグループの環境に対する考え方を活動を紹介した「環境ビデオレター」を全従業員が視聴し、現状の環境問題の再認識とグループにおける当年度の環境活動の方向性などを確認しています。

■EMS委員会だより

社内報の「EMS委員会だより」コーナーで毎月EMS委員が交代で環境活動の取り組み状況を報告しています。

■店舗テーマシート・ホーム環境改善チェックシートの運用

外食店舗では、「店舗テーマシート」を用いて、電気・水・廃棄物の削減などの環境改善への取り組みに対する監視測定を毎月行い、その結果と反省をもとに店舗別に次月の計画を策定しタイムリーな対応を行っています。このシートを用いてPDCAサイクルを推進し、全店舗・全従業員への環境活動の浸透と継続的改善を図っています。

■エリアマネジャー研修

外食店舗で発生した廃棄物が実際にリサイクルセンターでどう分別されどのように処分されていくか、また、外食店舗の分別状況を知るために、店舗を管轄するエリアマネジャーへ実際の分別作業の体験研修を行っています。

■BPS（ビジネスパートナーシップ）

ワタミグループとお取引のある廃棄物収集業者様を対象に、年に1回ワタミグループの環境への取り組みや方向性を知っていただくとともに各地域の業者様との情報交換の場を設けています。2007年度は関東と関西で開催し、合計86社のお取引業者様が参加されました。（→詳しくはP35）

社外とのコミュニケーション

外部とのコミュニケーション活動一覧表　一般の方々にワタミグループの環境への取り組みの一端を理解していただくことを目的に各施設で環境への取り組みを紹介しています。

年　月	案　件　名	実　施　内　容
2007年10月	すぎなみ環境賞にて事業者部門グランプリを受賞	杉並区役所が主催するすぎなみ環境賞にて、ワタミグループが国内店舗全店で使い捨て割箸使用を廃止しプラスチック箸を導入したことが区民投票の結果、「環境にやさしいで賞」事業者部門グランプリを受賞しました。
2008年2月	大田区エコフェスタワンダーランドin清水窪小学校	東京都大田区が主催する「区内の企業やNPO法人が子ども達と一緒に自然環境やエネルギーについて楽しみながら学ぶ」を目的としたイベントに参加し、子ども達と一緒にワタミの森の間伐材を使ったキーホルダー作りおよびパネル展示を行いました。
2008年2月	足立リサイクルセンター外国人研修の受入	外務省からの依頼を受け、ロシアの大学や企業から約10名を日本の廃棄物処理状況を学ぶためにワタミグループのリサイクルセンター内に受け入れました。ワタミの分別状況やリサイクルシステムの説明を行いました。
2008年3月	経済産業省主催省エネ委員会への参加	経済産業省が主催する省エネルギー・省資源対策推進会議に参加し、一般飲食店における省エネルギー実施要領の発行を行いました。会議では各業務部門においてエネルギー管理を徹底することを目的の一つとしており、ワタミグループでの店舗での環境への取り組みを実施要領に盛り込みました。
2008年3月	ふれあい報告書（CSR報告書）環境コミュニケーション大賞受賞	「ふれあい報告書2007」が、環境省および財団法人地球・人間環境フォーラムが主催する第11回環境コミュニケーション大賞にて優秀賞を受賞しました。
2007年4月～2008年3月	食品資源循環形成推進事業認証制度構築事業製品認証制度運用基準作成部会	食品廃棄物リサイクルの推進を目的として、農林水産省が主催する商品廃棄物をリサイクルし生産される商品の認証基準を作成する部会に参加させていただきました。
2007年4月～2008年3月	食品資源循環形成推進事業認証制度構築事業認証制度広報戦略部会	食品廃棄物リサイクルの推進を目的として、農林水産省が主催する法改正の内容を告知するツール制作や配布方法などの検討部会に参加させていただきました。

すぎなみ環境賞　授賞式の様子

エコフェスタ（ワタミの森の間伐材を使ったおもちゃづくり）

第11回 環境コミュニケーション大賞表彰式　授賞式の様子

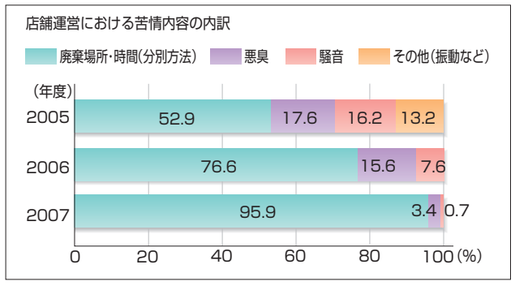
店舗運営に関わる苦情・事故

外食事業の店舗運営に関わる法規制である「騒音、振動、悪臭」に関して、廃棄物の分別の不徹底、出し遅れによる取り残し、液だれなどによる悪臭クレーム、トラック配送・回収時の騒音・振動クレームなどによる計147件の発生を確認しました。

2007年度のクレーム発生件数は前年に比べて増加となりましたが、これは、これまで廃棄物に関するクレームの報告形態とISO14001の報告形態が別であったことから、環境クレームの情報と精査対応の手順を一本化したためです。これにより、環境クレームが確実に報告されるようになり、その対応を最終確認できる仕組みができあがりました。

クレームが発生した際は、各事業本部、EMS委員会（→詳しくはP50）に報告され、原因を解明し各担当者より是正処置がなされます。

今後も経年的にクレーム数0件を目指していきます。



国内の外食店舗・介護施設でのライトダウン活動の実施

ワタミグループでは2008年度環境省が主催する「ブラックイルミネーション2008」に参加しました。（→詳しくはP46）

2008年6月21日（土）および7月7日（月）には、20時～22時までワタミグループ外食店舗592店・老人ホーム34棟・ワタミグループ本社の看板を消灯しました（一部、時間・消灯場所が異なります）。計測が可能な外食店舗221店舗のこの間の電力削減量は3,948kWhとなり、29tのCO_2を削減、また電力料金も約78千円を削減することができました。

TOPICS　環境への配慮を、個人のライフスタイルへ
ワタミエコフォーカス(株)環境部　課長 川原美和子

環境負荷軽減への取り組みを進めている中で、嬉しいことは社員やアルバイトの方が、家庭など自分のライフスタイルの中でも環境に配慮した生活が広がっていくことです。社員への研修やセミナーなどでも、「仕事の範囲だけでなく、環境に配慮した個人としての生活をすること」の意味を説明し、一人ひとりが考えるきっかけになればと思っています。「環境に配慮した生活をすることがあたりまえになる」ことを目指して、活動を広げていきたいと考えています。

環境会計

環境会計の集計範囲は、ワタミグループの本社および全直営外食店舗で2007年4月から2008年3月までに環境保全・管理活動のために支出した投資と費用の額です。

それぞれの活動ごとにコスト項目を特定し、金額を集計しています。ワタミグループでは環境保全コストを大きく3つに分類しました。

（1）店舗・本社における環境目的・目標を達成するための活動に関わるコスト（目的・目標コスト）
（2）環境法規制に対応するために必要なコスト（法規制対応コスト）
（3）環境マネジメントシステムの適切な運用･維持を図り､環境パフォーマンスを改善していくために必要なコスト（環境活動コスト）

集計結果(削減効果)

2007年度の環境保全コストは792百万円でした。その内の39%が目的・目標コストにあたります。この目的・目標コストでは、外食店舗におけるエネルギーマネジメントシステム、省エネ型冷蔵庫、節水型洗浄機、節水型トイレなどのハード機器導入によるコストが全体の33%を占めました。

これらの導入効果として、電気使用量については導入店舗で基準年である2003年度に対して月あたり13.6%の削減効果を上げることができました。

また、残り61%を占める法規制対応および環境活動コストには、店舗から出る一般廃棄物、粗大ゴミ、廃油、グリストラップ汚泥の回収・リサイクル処理費用、環境担当の人件費、ISO14001審査費用などが含まれます。

なお、2007年度の既存店における省エネ・節水促進および廃棄物のリサイクル化による削減コスト効果は、廃棄物の有料資源化が進みエネルギー単位上昇分を補完し､トータルで42百万円となりました。

CO_2の把握と効果測定

2007年度の環境活動によるCO_2削減効果は、2,389t-CO_2になりました。店舗では、業態ごとの見直しやチェック機能の強化を図り地球温暖化に取り組みました。また、毎週行われる会議にて、個店別にムダな電気の使用量のチェックし改善への落とし込みを続けてきたことが、今回の好結果につながったものと考えます。

2008年度も今回の結果におごることなく､引き続き地球温暖化の防止対策の強化に取り組んでいきます。

2007年度 環境保全コスト集計表　（単位：千円）

		コスト項目	具体的な取り組み	コスト
①目的・目標コスト	店舗	電気使用量の削減	エネルギーマネジメントシステム ･省エネ冷蔵庫の導入 注1）	92,402
		水使用量の削減	節水型洗浄機の導入、節水型トイレの導入 注2）	8,455
		排水の水質改善	グリストラップの管理･清掃･水質検査 注3）	41,640
		グリーン資材の導入	エコ文具の導入 注4）	354
			食用油酸化防止装置の導入 注5）	43,121
	本社	リサイクルシステムの構築	リサイクルセンター運営、再資源化委託など 注6）	116,033
		環境教育	従業員への教育の実施 注7）	2,957
		グリーン資材の導入	エコ文具の導入 注8）	5,104
小計				310,066
②法規制対応コスト		適正な廃棄物処理	一般廃棄物の委託処理 注9）	471,456
		適合性チェック	環境法規制の適合性チェック 注10）	2,700
小計				474,156
③環境活動コスト		審査・監査関係	ISO14001の全社、全店舗での運用、環境監査の実施 注11）	8,141
合　計　（①+②+③）				792,363

注1）エネルギーマネジメントシステムは292店舗分、省エネ冷蔵冷凍庫は141台の導入コスト（店舗数は11店舗）　注2）節水型洗浄機は11台分（11店舗）、節水型トイレは46台分（11店舗）　注3）グリストラップの管理清掃は626店舗分　注4）エコ文具導入新店舗10店舗分　注5）リース契約代金月額6,360円　注6）リサイクルセンター（2カ所）運営・再資源化委託費用、リサイクル品回収230店舗 および廃油回収657店　注7）従業員3,934人への研修（重複人数）　注8）本社エコ文具導入分（名刺発注金額含む）
注9）一般廃棄物585店舗　注10）外部コンサルティング費用および、法規制情報サイト契約料　注11）ISO14001認証取得617サイト対象

2007年度 店舗における経済効果（既存店比）　（単位：千円）

効果項目	既存店の増減額
省エネルギーの推進（電気・ガス）	35,267
省エネルギーの推進（水）	▲9,908
廃棄物処理委託費（リサイクルによる差益含む）	▲67,106
合　計	▲41,747

2007年度 店舗におけるCO_2効果測定（既存店比）　（単位：t-CO_2）

効果項目	既存店の増減額
省エネルギーの推進（電気）	▲2,243
省エネルギーの推進（ガス）	▲168
省エネルギーの推進（水）	22
合　計	▲2,389

既存店比較対象店舗数：591店舗（2006年度末店舗数）

ワタミの森づくり活動

2007年10月、ワタミグループではNPO法人「Return to Forest Life」を設立し、いよいよワタミのNPOとしての森づくりがスタートしました。

森を再生させたい！元気にしたい！！

ワタミの森
Return to Forest Life

この森づくりの目的は、現在荒廃している山林に適切な管理を施すことによって、少しずつ元の状態に戻し、たくさんの生き物たちを森に呼び戻すとともに、植物の光合成によるCO_2吸収効果を最大限に活用して、少しでも多くの温室効果ガスの吸収を促進していくことです。

この森づくりでは、大人から子どもまでたくさんの人たちに関わっていただくことが大前提です。

また、参加した人たちが森づくりを楽しみながら、森を活性化させることの必要性を感じてもらえるような活動を計画しています。

そして、ワタミの森の再生の輪を可能な限り広げていき、森を次世代の子どもたちに健全な形で引き継いでいけるように力を注いでいきます。

2007年度 活動実績

2007年度、森の活性化に向けて現在放置されている9haの人工林の間伐、下草刈り、ケヤキの植樹などを行いました。また、森づくりの中では、間伐材で塗り箸やベンチなどを作成し、その有効活用方法についても検証を繰り返し行っています。

私たちはこれらの活動を通して、森の機能の活性化と森づくりのノウハウを学んでいきます。

そして、徐々に規模の大きな森の維持・活性化に着手し、自然環境改善への貢献を可能な限り大きなものにしていきます。

森づくり活動

森づくり活動前

森づくり活動後

2008年度 活動計画

森の保全・再生活動

毎月2回の定例活動の中で年間240本の間伐を計画し、間伐で空いたスペースへ、播種床を設けてドングリから育成しているクヌギ、コナラなどの広葉樹を適宜移植していく予定です。また活動拠点の拡大に向けて、地域行政およびNPO団体と連動して候補地を選定し、積極的に拠点の確保を検討していきます。

森の保全・再生に関する調査

植生調査を定期的に行い間伐による植物の遷移状況の経年変化を確認するとともに、林内にセンサーカメラを設置して、地域内生息動物の実態調査を行っていきます。

森の恵みの普及啓発

国産間伐材の活用方法の検証および普及啓発を目的として間伐材を製品化し、その製品の販売を通して有効活用方法を提案していきます。2008年度は間伐材を使って箸やベンチを作成し、各施設などにて展示および販売を行いながら、その有効活用方法についての検討を行っていきます。

森づくり体験ツアーの開催

定例活動とは別に、グループ内外企業、学校、一般市民の方々を対象に、森づくり体験ツアーの開催を積極的に行っていきます。

間伐材を利用した試作品ベンチ